



内閣府（防災担当）

相模トラフ沿いの巨大地震等による長周期地震動 検討会（第5回）議事概要について

1. 検討会の概要

日 時：平成30年8月29日（水） 15：00～17：00

場 所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：平田座長、入倉委員、北村委員、小鹿委員、久田委員、福和委員、
古村委員、翠川委員、三宅委員、山崎委員、山中委員

2. 議事概要

大正関東地震の震度分布の再現、地盤の非線形性、長周期地震動計算の基礎的検討、有限要素法を用いた長周期地震動の推計手法について議論を行った。概要は、以下のとおりである。

- 建物の倒壊のしやすさや倒壊率という言葉の定義は時代とともに、また調査主体によっても異なるため、大正関東地震の震度分布を再現するためには、他の地震によるデータの補間等を行わず、データが少ないとしても大正関東地震での被害をベースに検討するべき。
- 中村・宮武の震源時間関数をマグニチュード8クラスのモデルへ適用すると、震源近傍での非常に大きな短周期の地震動を生じたり、逆に長周期地震動が過小に評価される可能性も考えられることから確認が必要。
- 点震源を規則的に間引いたことによる影響が出ていないか、またスペクトルを見ると短周期の地震動が過大になっている可能性があるため、これらについて確認が必要。
- 工学基盤より上側と下側の2段階のモデルで計算を実施する場合は、それぞれのモデルでの一層の効率的な計算のための適切なメッシュサイズと、上側のモデルへの接続方法について確認が必要。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当企画官 高橋 伸輔

同参事官補佐 岩村 公太

TEL：03-3501-5693（直通） FAX：03-3501-6820